

ばんたね ニュース No.2



藤田保健衛生大学
坂文種報徳會病院

〒454-8509
名古屋市中川区尾頭橋3丁目
6番10号
TEL 052-321-8171
FAX 052-322-4734
<http://www.fujita-hu.ac.jp/HOSPITAL2/>

採血時の注意点

近

年、血液検査で様々なことがわかるようになりました。

みなさん一度は採血をされたことがあると思いますが、

今回は採血時の注意点をお話したいと思います。



注意点
その1

採血時の患者さんの状態によって、検査結果に影響を及ぼす事がありますので、主治医の指示に従ってください!

例)

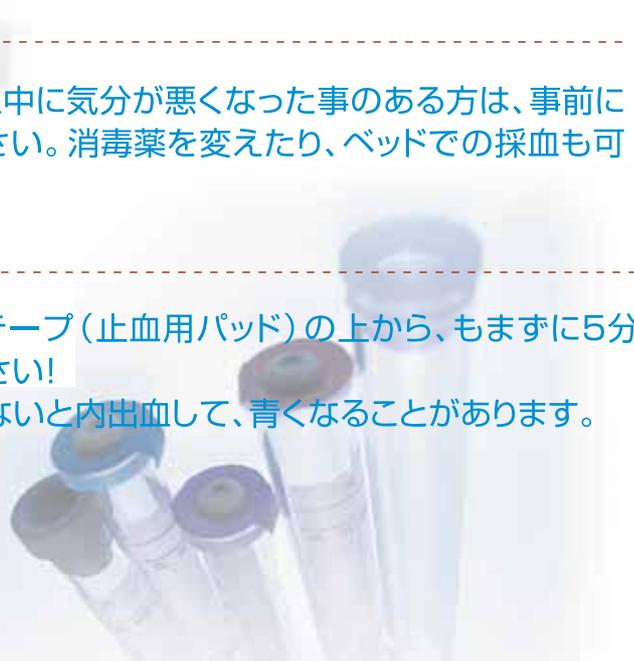
- 食事の後は、FBS (血糖値) やTG (中性脂肪) が上昇します。
- 激しい運動の後は、CK (クレアチンキナーゼ) が上昇します。
- 女性の場合、月経周期により性腺ホルモンの値が変動します。
- 妊娠中は、ALP (アルカリ性フォスファターゼ) やAFP (αフェトプロテイン) が上昇します。
- Fe (血清鉄) は、早朝に高値、夜間は低値と日内変動があります。

注意点
その2

アルコールに過敏な方や、採血中に気分が悪くなった事のある方は、事前に臨床検査技師に申し出てください。消毒薬を変えたり、ベッドでの採血も可能です。

注意点
その3

採血直後は、テープ (止血用パッド) の上から、もまずに5分程押さえて下さい!
押さえておかないと内出血して、青くなることがあります。



バリウム造影剤を使用した X線透視検査後の注意について

1、バリウム造影剤を使う、主なX線透視検査は？

食道透視:食道の通過状態を確認するために一口ずつ飲んでいただきます。

胃透視 (UGI):胃全体の状況を確認するため、コップ1杯程度 (200ml) を飲んでいただきます。

大腸透視:器具を使い、おしりから200~300ml程度入れて検査を行います。



2、検査で体に入ったバリウム造影剤はどうなる？

検査で使ったバリウム造影剤は、大便として排泄されていきます。大腸内で水分を失うと石のように硬くなりますので、腸の粘膜を傷つけたり、排便困難となったりして非常に危険ですので、検査後は速やかに体外へ排出することが重要です。

そのため、検査を受けていただいた後に「バリウムを使用した検査後の注意について」という注意書をお渡ししています。その主な内容は、

- ①検査後に服用する下剤は、必ず指示どおりに、コップ一杯以上の水で服用すること
- ②検査後は、帰宅後もできるだけ多くの水分をおとりいただくこと
- ③便意を感じられなくても定期的にトイレに行かれ排便をするよう心がけること
- ④白い便が排泄された後も、色調が通常便に戻るまで、検査後の数日間は、排便の状況を確認すること
- ⑤下剤を服用されてもバリウム便が排出されない場合は、直ぐに当院、もしくは他の医療機関を受診すること
- ⑥検査後に持続する便秘、嘔気、嘔吐、腹痛、腹部膨満感などの症状があらわれた場合には、直ぐに当院、もしくは他の医療機関を受診していただくことです。安全な検査とするため、是非ご理解、ご協力ください。



おくすりを正しく使っていますか？

薬には、目的とする作用（主作用）と、目的以外の好ましくない作用（副作用）とがあります。正しく使っていたら、主作用を最大限に引き出しながら副作用を最小限に抑えることができます。今回は、内服薬が処方されたときの、一般的な注意事項についてお話します。



《飲む時間・飲み方・飲む量を守りましょう》

1. 飲む時間

用法	飲む時間	代表例
食後	食事の後30分以内	一般的な薬
食前	食事の30分位前	漢方薬、食欲増進剤
食直後	食事が終わったらすぐに	脂溶性ビタミン剤、一部の糖尿病薬
食直前	食事の5分位前に	一部の糖尿病薬
食間	食事と食事の間（空腹時）、食事の2～3時間後	漢方薬
起床時	起きてすぐ	骨粗鬆症治療薬
就寝前	寝る直前か、30～60分前	睡眠剤、下剤

2. 飲み方

〈錠剤、カプセル剤、粉薬などは十分な量（コップ1杯）のぬるま湯で服用してください〉

- 水の量が少ないと吸収が遅くなったり、薬が食道に引っかかり炎症を起こしたりする恐れがあります。
- 水以外（お茶、アルコール、スポーツ飲料など）と一緒に飲むと、薬の効果に影響を与えたり、薬の苦味を増したりする場合がありますので避けましょう。

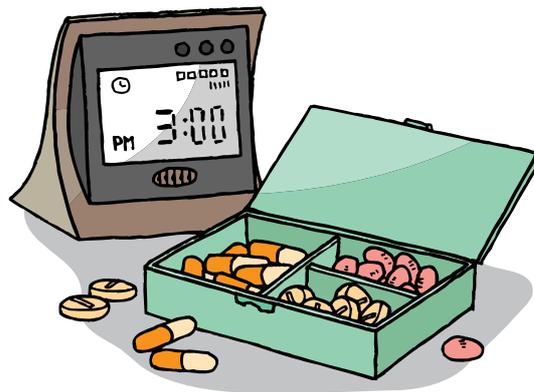
〈錠剤をつぶしたり、カプセル剤をはずしたりしないようにしてください〉

- 「薬」の副作用や苦味を減らすためのコーティングがしてある場合や、徐々に溶けるよう薬の吸収速度を調節している場合があります。
- 錠剤やカプセル剤をうまく飲み込めない時は医師または薬剤師に相談してください。

3. 飲む量

〈薬は、患者さんの個々の症状や年齢、体質などを考えた上で処方されています〉

- 原則として自分の判断で飲む量を変えてはいけません。
- たくさん飲めばよく効くというものではありません。必要量以上に使うと副作用の出る恐れがあります。副作用をこわがって中途半端に減らしてしまうと肝心の効果が出ないことがあります。決められた量をきちんと飲みましょう。
- 以前にもらって残っている「薬」を使うことはやめてください。同じような症状でも違う病気であることがあります。
- 勝手に他人に「薬」をあげてはいけません。



病気を治療していく上で、薬を正しく使っていただくことがとても大切です。疑問や不安な点があればいつでもご相談ください。



information

市民公開講座よりお知らせ

ばんたね病院では、年4回健康セミナーを開催しています。

以下に、今後予定しているテーマをご紹介します。どうぞ気楽にご参加ください。

平成20年			平成21年		
2月	循環器科	胸が苦しい(終了しました)	2月	眼科	涙が出にくい(目が乾く)
7月	外科	お乳にしこりができた	5月	産婦人科	月経が不順 (月経からわかるあなたの健康)
9月	小児科	子どものアレルギー	9月	リハビリテーション科	日常生活における介助方法
11月	皮膚科	带状疱疹	11月	耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科の感染症